

柳田中図書館だより

No. 1

令和5年4月25日(火)



心にとっての読書は、身体にとっての運動と同じである。

リチャード・スティール（アイルランドの作家／1672－1729）

今年度前期の文化委員会の活動目標は、「本を好きになろう」です。柳田中学校のみなさんは、本を読むのは好きですか？「朝読書の時間以外はあまり読んでない（3年Yさん）」という人も多いかもしれませんが、「現実ではありえない世界にいける（2年Sさん）」「本の世界に吸い込まれる感じが好き（2年Sさん）」「登場人物の立場になって考えるのが楽しいし、伏線など作者の仕掛けに気付いたときに爽快感がある（2年Tさん）」など、読書にはたくさんの楽しみが詰まっています。読書は“心の栄養”です。ぜひ図書室を訪れて、本との出会いを楽しんでください。

図書室の使い方

① 本は大切に使いましょう

… 本は大事にあつかってください。汚れたり、破れたりした本を見つけたときは、図書委員や図書の先生に報告しましょう。

② 図書室では静かに

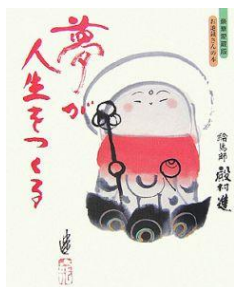
… 図書室は本を読んだり、探したりする人が優先です。リラックスに来るのは大歓迎ですが、おしゃべりはひかえめに。

③ 本の貸し借りは昼休みに

… 昼休みに、当番の図書委員に声をかけて借ります。借りた本があった場所を覚えておきましょう。1回に借りられるのは2冊まで。返却期限は2週間です。



先生方のおすすめの本



「夢が人生をつくる」著者：殿村進（宙出版）

『「人生に夢があるのではない 夢が人生を作るのだ」こんな素敵な言葉が筆文字で、言葉にぴったりのイラストと一緒に書いてある、目で読んで心で感じる絵馬師が描いた詩集です。』と紹介された本を見て、ぜひ読んでみたくなりました。

中村先生（美術）



「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」

著者：ブレイディみかこ（新潮社）

「正直、中学生の日常を書き綴ることが、こんなに面白くなるとは思っていませんでした。」は、前書きの作者の言葉。イギリスの中学校に通う男子の日常を、母親である作者の視点から書いた本。差別や貧困など難しい問題にぶち当たりながらも、たくましく生きていく姿にパワーをもらえます。

赤阪先生（社会）